

## 全国工業専門学校協会 第3回(平成30年度)学生成果報告会 要旨等

第一部(14:10～15:10)

① 中央工学校 OSAKA

### デコルームコンペ

～賃貸マンションリフォームプランの提案～

奥村 藍莉(住宅デザイン科2年)

三好 理奈(インテリアデザイン科2年)

本校では、2013年から(株)レンタックスとの企業連携授業として、築年数が古く、借り手が見つからなくなった賃貸マンションのリフォームプランを提案する課題に取り組んでいます。授業は建築系学科の2年生を対象にコンペ形式で行われ、1次審査及び2次審査(公開審査)を経て、優秀作品・商品化作品が選ばれます。商品化作品はコストが検証された上、実際に施工されることになっています。

授業では課題説明の後、現地調査を行い、担当教員の指導を受けながら作品を仕上げていきますが、テーマやコンセプトに制約はなく、毎年、さまざまな案が提出され、企業からも高い評価を得ています。

2018年度は、大阪府八尾市の賃貸マンション(3DK+S)と大阪府東大阪市の賃貸マンション(1LDK)の2物件について取り組み、最優秀に選ばれた2作品を紹介します。

② 清風情報工科学院

### シリコンバレーで学んだ世界と日本

竹内 伸輝(デザイン・コンピュータ学科デザイン・イラスト専攻2年)

8月26日～9月2日に参加したアメリカ、シリコンバレー日本大学の短期留学。

そこでの経験から得た世界と日本のマインドセットの違い、プロセスの違い、自身の成長を発表します。

### ③ 日本分析化学専門学校

## 食虫植物の消化液における酵素活性および抗菌性評価

有村 拓紀・竹浦 政光・野田 悠也・水野 太貴(医療からだ高度分析学科 4 年)

虫を捕える能力を持った食虫植物は世界中に約 600 種類存在している。その中でも、ウツボカズラのような「落とし穴式」の食虫植物は 100 種類以上ある。これらの食虫植物が自生している地域の住民は、その分泌する消化液を経験的に飲んでおり、身体に何らかの効果を与えていると考えられた。しかし、ウツボカズラは東南アジアを中心にインドやマダガスカルの湿地を原産とする植物であるため、研究用に栽培することが難しい植物でもある。そのため、これらの消化液に含まれる成分についての詳細な報告例も少ない。

そこで今回は、約 10 種類のウツボカズラの消化液を採取し、試料として、まずは基礎的なデータを集めることに重点を置き、消化液の酵素活性の比較や抗菌性について実験を行った。その結果、品種の差はあるものの、タンパク質に対する酵素活性が認められ、大腸菌に対する抗菌効果も示唆された。

### 第二部(15:20～16:20)

### ④ 日本電子専門学校

## 学ラボプロジェクト成果報告(3年目の成果)

黒田 輝人(CG映像制作科 2年)

鈴木 宏和(Webデザイン科 2年)

五十嵐 絵美(グラフィックデザイン科 2年)

平岡 司(電子応用工学科 2年)

学ラボは、学科の枠を超え、現場に即したシステムを構築するプロジェクトで、今年で3年目を迎えます。企業がともに入り、マーケティング、PDCAサイクルを繰り返すことによって完成度を高めていきます。

病院やリハビリテーション施設などとタイアップしたシステムは、一般的な測定機器でなく簡単なボールのような端末機器を使うことで患者さんの握るチカラを測定・保存することができます。線で繋がっていない機器を使う事により患者は緊張することなく、施術者とのコミュニケーションを深める役に立ちます。

## ⑤ 大阪バイオメディカル専門学校

### 水都大阪を盛り上げよう！

#### 大阪城トライアスロン大会スイムコース水質調査とボランティア活動

鷺見 祥代・山田 茉里奈(バイオ学科3年)

大阪城トライアスロン大会をバイオ技術者の卵たちが全面的にバックアップ！大阪城トライアスロン大会(大阪市主催の国際大会)はスイムコースが城内の外濠に設定され、その奇抜さで大きな話題となりました。

本校では環境科学コースの学生がそのスイムコースの水質に着目し、安心安全な大会のために大会実行委員会ご公認で水質データ提供を継続的に実施。

また、運営面でも本校より100名を超える学生ボランティアが参加。大会HPにも協力団体として掲載いただきました。また、次年度に向けてご協力依頼を頂戴しています。

## ⑥ 修成建設専門学校

### 海外アパレルブランドと協働したデザイン教育の取組み

〇〇 〇〇(〇〇〇〇科 〇年)

〇〇 〇〇(〇〇〇〇科 〇年)

空間デザイン分野での産官学コラボレーション教育の取組みについて。本校空間デザイン学科では、「かんがえる」「つくる」「つたえる」ちからの育成のため、コンセプトの構築・デザイン立案・プレゼンテーションを反復して学ぶことを通じ、空間デザインを体系的に理解し、多様な進路に対応するデザイナーの育成を目指しています。

近年ではキャリア教育の一環として、地域産業とのイノベーション協働や、現役デザイナーとのワークショップなど、教育現場のオープンな協働に注力して、一定の評価を頂いています。

今回、スイスに本拠地を置くアパレルブランド、FREITAG社の若者向けキャンペーンへの参画として、店舗デザイン課題を行っており、今発表会では、参加学生により、課題の趣旨・活動報告をさせて頂ければと考えております。